

大柏・野木崎地区の将来構造

本地区は、丘陵上の大柏、野木崎の集落と利根川沿いの広大な水田及び1988年（昭和63年）から地区北側の谷津に沿って整備された工業団地により構成されています。その中に、常磐自動車道沿いに市役所と中央図書館が、利根川沿いに常総運動公園や大利根運動公園が整備されています。

かつては利根川の水運の拠点としての性格を有していましたが、現在は常磐自動車道及びつくばエクスプレスの東京方面からの入口にあたり、守谷市の景観上の玄関となっています。今後は、常磐自動車道守谷サービスエリア（SA）を活用したスマートインターチェンジ（SIC）の開設が検討され、それと連絡する都市計画道路供平坂戸井線などの広域幹線道路の整備が予定されていることから、広域的なポテンシャルがさらに高まると考えられます。良好な環境を生かし、さらに広域幹線道路の整備に合わせ、良好な農業・農村環境との調和のとれた計画的なまちづくりを進める必要があります。

地区の目標		「都市の新たな玄関となる美しい緑の景観を生かすまちづくり」
		- 市役所周辺の行政文化拠点の育成と水と緑の良好な環境・景観の形成を図ります。 - 利根川を越える広域自動車交通を受けとめ生かす交通体系の整備を進めます。 - 大規模な農地などの緑豊かな環境と調和する集落環境の保全、産業土地利用の検討を進めます。
将来地区構造	土地利用の骨格	市役所周辺、もりや工業団地及びスマートインターチェンジ周辺を除く地域を農業・自然環境を守るゾーンとして、農地や自然環境の保全・活用と集落地環境の改善を図ります。 都市計画道路供平坂戸井線沿道については、広大なオープンスペースと緑の斜面緑地が市の顔として良好な景観を形成しているゾーンであることから、積極的に緑地の買取りを進め、緑地の保存に努めるとともに、常磐自動車道スマートインターチェンジ（SIC）や都市計画道路供平坂戸井線の整備に合わせて沿道の環境・景観を保全しつつ、農業環境と調和する計画的な産業系土地利用を検討していくゾーンとします。 地区の市街地は、良好な都市的環境の保全と育成を図ります - もりや工業団地（緑地区）は、良好な工業地として、その環境を維持します。 - 市役所周辺は、行政・文化等の機能を持つ緑豊かな市街地として、その環境を育成します。 - 市街地縁辺の幹線道路が整備された沿道では、計画的な土地利用を誘導します。
	交通の体系	道路交通 - 広域幹線道路として、南北方向の都市軸道路（都市計画道路守谷・伊奈・谷和原線）の未整備区間、東西方向の都市計画道路供平坂戸井線の整備を促進します。 - 常磐自動車道を通り、利根川を越える広域高速自動車交通に対する守谷市の玄関口となるよう、広域幹線道路の交差部に近接する常磐自動車道守谷サービスエリア（SA）を利用したスマートインターチェンジ（SIC）の開設を検討・推進します。 その他 - 行政文化拠点と常総運動公園及び大利根運動公園を結ぶ歩行者・自転車交通ネットワークや利根川、鬼怒川堤防上の歩行者・自転車交通ネットワークを整備します。
	活動や交流の拠点	- 市役所周辺地区を、地区環境の整備と守谷駅周辺と役割分担する都市機能立地により行政文化拠点として育成します。 - 常総運動公園周辺は広域スポーツ・保健福祉拠点機能を強化します。 - 河川沿岸の環境・景観の保全に配慮しつつ、稲戸井調節池の整備と連動した運動施設の整備を促進します。

■地区整備方針図

